

令和 3（2021）年度 資源評価調査報告書

種名	マゴチ	対象水域	日本海（青森県～島根県）
都道府県名	青森県、秋田県、新潟県、富山県、福井県、鳥取県、島根県	担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部

1. 調査の概要

青森県（日本海側～陸奥湾の主要21港）、秋田県、新潟県、富山県、福井県、鳥取県および島根県における2020年月別漁業種別水揚量を集計し、漁獲状況を把握した。また、青森県（2007～2020年）および鳥取県（2011～2020年）における年別漁獲量を集計し、漁獲動向を調べた。コチ属魚類は分類が確立していないこともあり（甲斐 2018）、本データにヨシノゴチ等が含まれる可能性があるが、それらを合わせた漁獲量をマゴチの漁獲量として解析した。

2. 漁業の概要

日本海域における2020年総漁獲量は25.3トンであり、新潟県（42%）と富山県（34%）による漁獲が全体の76%を占めた（図1）。漁獲量は夏季（6～8月）が多く、冬季（1～3月）は少なかった（図1）。漁法として、青森県、秋田県、新潟県では刺網、富山県では定置網、島根県では底びき網の割合が高く、主漁法は県によって異なった（図2）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：北海道以南の太平洋・日本海域、インド洋、紅海にかけて、主に 30 m 以浅の砂泥底に生息する（青山・北島 1963；増田ら 1991）。
- (2) 年齢・成長：いずれの年齢においても雌の方が雄より大きく、雌の最大体長は 65 cm 程度（図 3）。体長と体重の関わりに性差は認められない（図 4）。
- (3) 成熟・産卵：一般的にコチ科魚類は性転換するが、本種は例外的に性転換しない可能性が示唆されている（甲斐 2018）。産卵期は 5～7 月（増田ら 1990；森川ら 2002）。
- (4) 被捕食関係：小型魚類や甲殻類などを捕食（甲斐 2018）。被食関係は不明。

4. 資源状態

本系群の資源量指標値は現時点において得られていない。ここでは長期データが得られた青森県と鳥取県における漁獲量の推移を述べるに留める。直近5年間（2016～2020年）の漁獲量は青森県では横ばい、鳥取県では減少傾向を示し、漁獲動向は県によって異なった（図5、表1）。

5. 資源回復などに関するコメント

マゴチの産卵期は5～7月であるが（増田ら 1991；森川ら 2002）、その期間は各県の漁獲盛期と重なっている（図1）。加入資源を保護するべく、産卵親魚の過剰な漁獲にならないよう配慮することが求められる（増田ら 1991）。

6. 引用文献

青山恒雄・北島忠弘（1963）東海黄海産コチ類の分布ならびに漁獲量について，西海区水研業績, **157**, 1-9.

甲斐嘉晃（2018）スズキ目コチ科マゴチ(コチ属)「日本魚類館」中坊徹次編, 株式会社小学館, 東京, 222.

増田育司・篠原宣夫・小沢貴和（1991）八代海南部におけるコチ属 2 種の漁獲量と分布, 日水誌, **57**, 1257-1262.

森川 晃・川上 弘・田北 徹（2002）有明海産コチ属 2 種の年齢と成長, 水産増殖, **50**, 271-277.

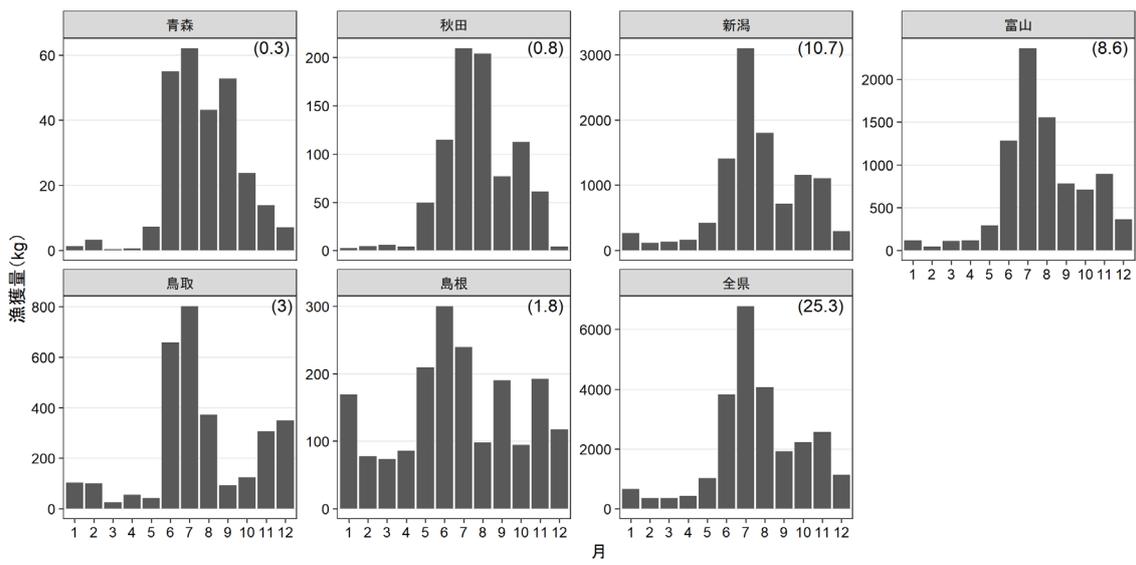


図1 2020年マゴチ県別・月別漁獲量
括弧内の数値は2020年総漁獲量(トン)

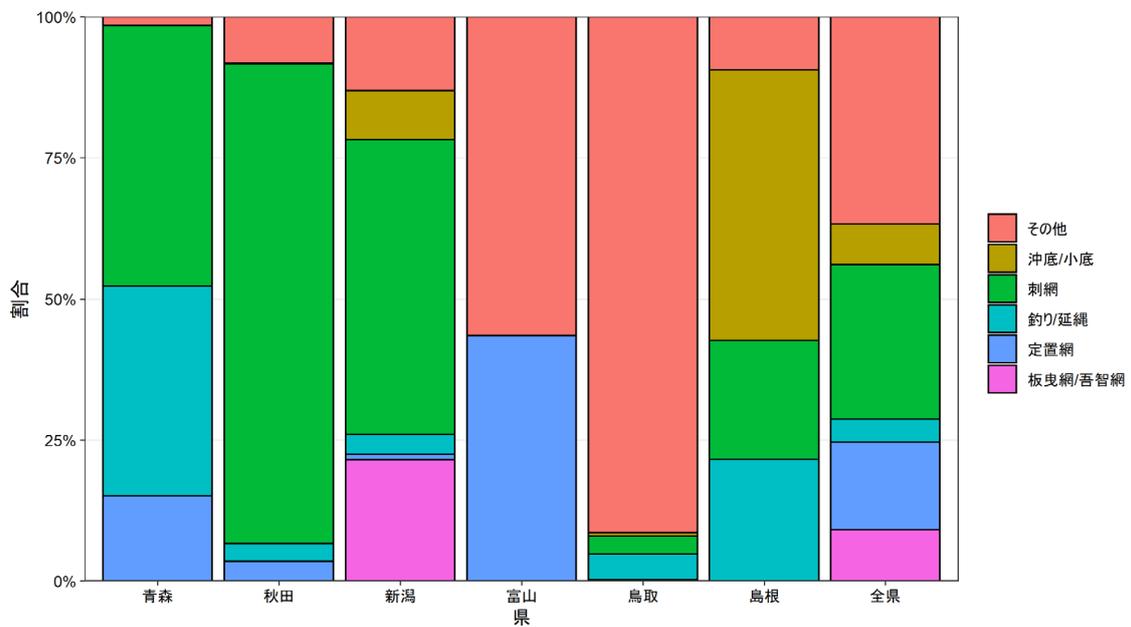


図2 2020年マゴチ漁法別漁獲割合

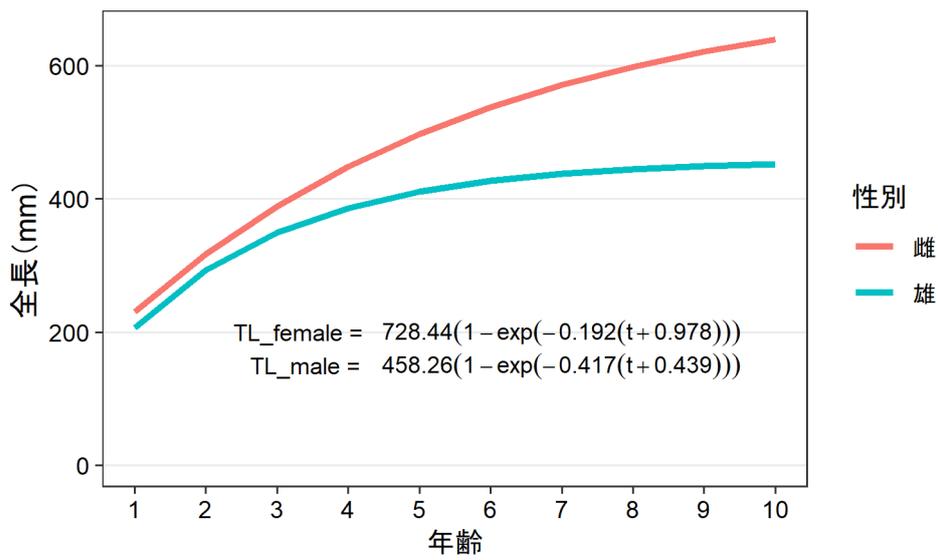


図3 マゴチの雌雄別成長曲線（森川ら 2002 を改変）

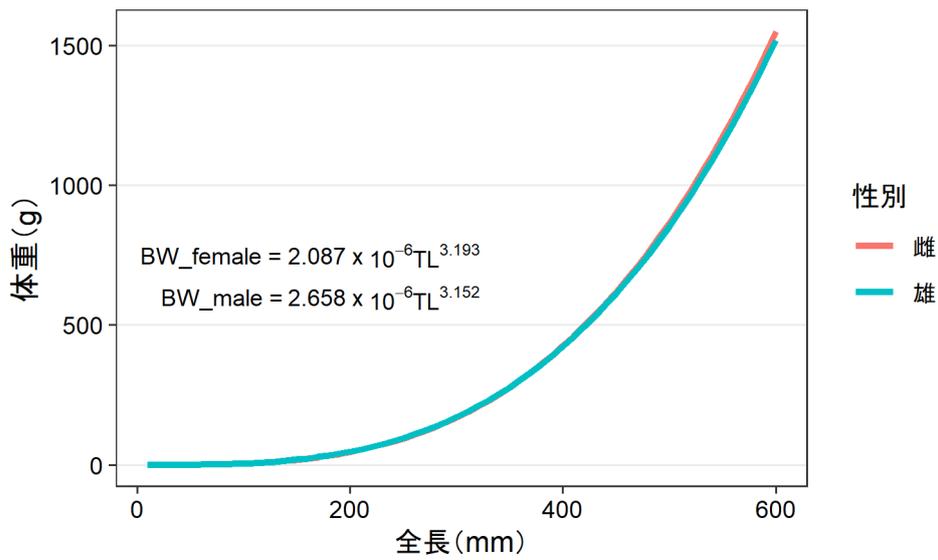


図4 マゴチの全長と体重の関係（森川ら 2002 を改変）

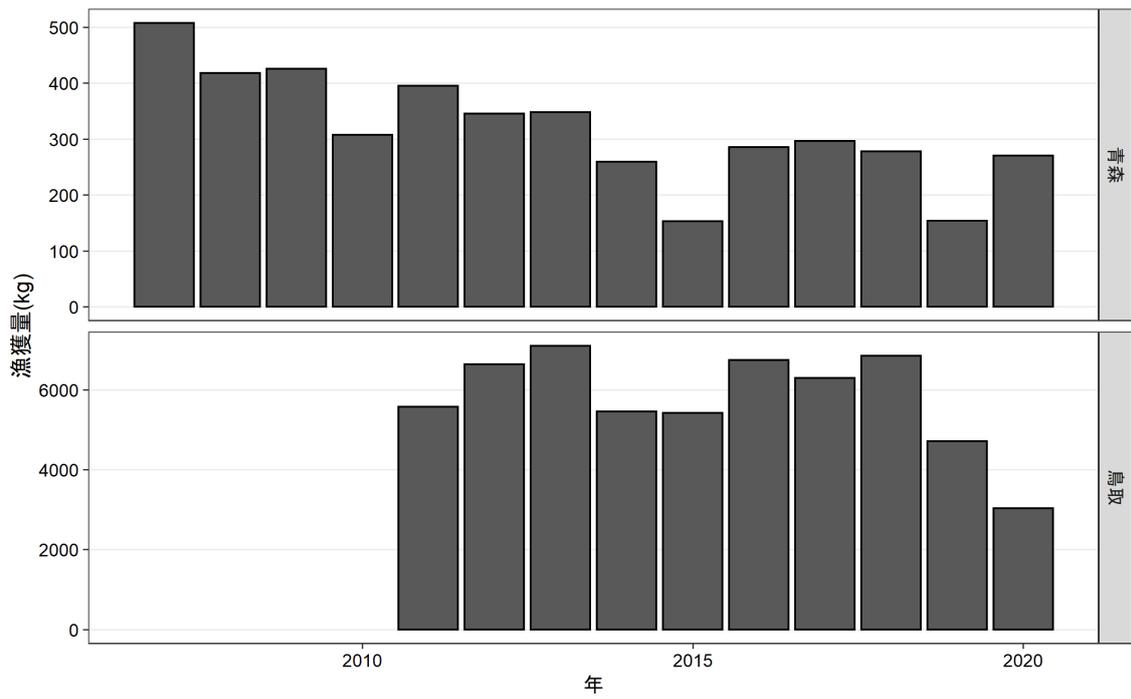


図5 青森県（2007～2020年）および鳥取県（2011～2020年）におけるマゴチ漁獲量

表 1. 青森県および鳥取県におけるマゴチの漁獲量
(単位 : kg)

年	青森	鳥取
2007	507	
2008	418	
2009	426	
2010	308	
2011	395	5568
2012	345	6637
2013	348	7098
2014	260	5459
2015	153	5424
2016	285	6739
2017	296	6289
2018	278	6847
2019	154	4715
2020	271	3032

鳥取県の 2007～2010 年漁獲量は未集計。